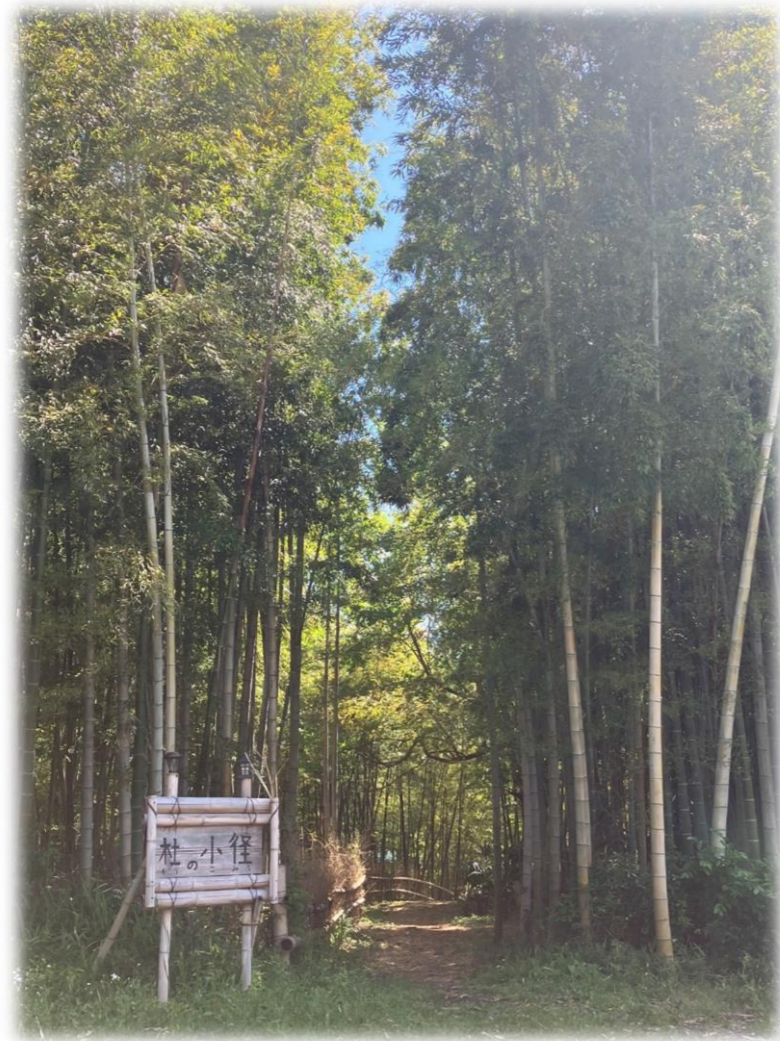


雑品倉庫

第72号



～風のささやき…、そこは落ち着いた時間が流れる場所です～



ここにも亦、平和と敬虔と
休みなき精進とがありはしないか

社会福祉法人唐池学園協力会 令和5年7月発行

【表紙の写真】

コロナ禍の最中、理事長と学園の子ども達とで、心安らぐ空間(貴志園に続く小径)を造りました。

「ここは嵯峨野(京都)ですか？」と尋ねる人が居るとか居ないとか…。是非、お立ち寄りください。

社会福祉法人唐池学園の各施設の所在地等



法人本部・児童養護施設 唐池学園

所在地：〒252-1124 綾瀬市吉岡 2377-口

電話：0467-78-0012/0467-78-0514、FAX：0467-76-3006

施設認可年月日：昭和24年4月1日、定員：45名

グループホーム「ななの家」・「よんの家」定員：各6名



児童養護施設 強羅暁の星園

所在地：〒250-0408 足柄下郡箱根町強羅 1320-203

電話：0460-82-2853、FAX：0460-87-7275

施設認可年月日：昭和22年6月19日、定員：50名



乳児院 ドルカスベビーホーム

所在地：〒252-1124 綾瀬市吉岡 2380-2

電話：0467-78-1054、FAX：0467-70-3827

施設認可年月日：昭和44年4月1日、定員：25名



保育所 つぼみ保育園

所在地：〒252-1107 綾瀬市深谷中 5-20-48

電話：0467-78-0641、FAX：0467-79-2908

施設認可年月日：昭和42年5月1日、定員：110名



保育所 吉岡保育園

所在地：〒252-1124 綾瀬市吉岡 1980

電話：0467-78-4324、FAX：0467-78-4365

施設認可年月日：昭和50年4月1日、定員：60名



障害者支援施設 貴志園

所在地：〒252-1124 綾瀬市吉岡 2381-1

電話：0467-78-4178、FAX：0467-79-5119

施設認可年月日：昭和49年9月1日

定員：入所30名 通所40名、グループホーム設置

総合支援法による、共同生活援助(グループホーム)、生活介護事業、就労継続B型事業、就労移行・定着支援事業、放課後等デイサービス事業、相談支援事業、自立生活援助事業を行っています。

また、綾瀬市から、基幹相談支援センター、委託相談支援の委託を受けています。

目次

- 役員寄稿「私に人生を問いかけてくれた、私の出会った人たち」・・・ P 1
- シリーズ連載「千鳥足の価値観」・・・ P 2
- シリーズ連載「野の花のこと」・・・ P 3
- 施設の紹介
 - （ 児童養護施設 唐池学園（P4）、児童養護施設 強羅暁の星園（P5）
 - （ 乳児院 ドルカスベビーホーム（P6-7）、つぼみ保育園（P8）、
 - （ 吉岡保育園（P9）、障害者支援施設 貴志園（P10-12）
- バックナンバー紹介 昔の事など（その2）—歴史的感覚について— P 13
- 職員寄稿「ネコから学ぶ心理臨床」・・・ P 14
- 法人「かわら版」～令和4年度のトピックス～・・・ P 16
- 令和5年度イベントのお知らせ・・・ P 17
- 令和5年度新任職員紹介・・・ P 18
- 協会会費・寄附金をくださった方々の紹介・・・ P 19
- 令和4年度決算報告(法人単位貸借対照表)・・・ P 20
- 役員等名簿・編集後記・読者プレゼントのお知らせ・・・ P 21
- 裏表紙「各施設の所在地等」



第72号刊行に寄せて

唐池学園協会 会長 高松 邦夫

ようやくコロナの制限が解除されましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか？

電車に乗ると、まだほとんどの方がマスクをつけている姿を目にします。もう暫く時間はかかるかもしれませんが、早く皆が安心してマスクを外せて、笑顔を見せ合いコミュニケーションが交わせる平穏な日が来ることを祈念しております。

さて話は変わりますが、現在の唐池学園の園舎が昭和43年に建築されてから54年以上もの年月が流れ、今年度から老朽化した建物の建替え計画を具体的に進めると聞きました。

この園舎は、鶴飼理事長にとって思い入れの深い建物ですから、言葉では言い表せないほどの苦渋の決断だったかと思えます。ただ、時代の流れをしっかりと受け止め、未来を見据えて、施設に住まう子ども達や職員のために、大きな決断をされたことには本当に頭の下がる思いです。

また、ほぼ同時期の昭和44年に建築された強羅暁の星園も、やはり老朽化により唐池学園に続いて園舎の建て替えを検討していると聞きました。唐池学園協会としても微力ながらバックアップしていけたらと考えております。なお、建替え計画の概要につきましては、次回以降の雑品倉庫で、特集ページを設けるなどして、皆さまにお知らせできたらと考えております。

どちらも半世紀に一度の一大事業になりますので、本誌購読者の皆さまからの温かいご支援、ご協力を賜れましたら幸いです。

役員寄稿

私に人生を問いかけてくれた、私の出会った人たち

理事（貴志園副園長） 田中 晃

福祉の仕事は、人との出会いの連続である。自分は障害者福祉あるいはリハビリテーション医療の仕事を通じてなので、出会いといえば障害のある人との出会いということになる。

1976年神奈川県立リハビリテーションセンターに入職した。24歳の頃である。この障害福祉の仕事を選ぶきっかけとなった一つの出会いも含めて思い返してみたい。

私が21歳の頃に出会った、脳性小児麻痺や筋ジストロフィーの高校生。「障害者」ではなく「ただの人だ、高校生だ」ということを教えてくれた。「障害者」として意識して接していた私の意識に気づき、そのギャップに自分自身が驚いた。恋愛に悩み、恋敵と闘い、直向き何かを見つめて、自分を生きる清々しさに、私の中で何かが変わった思い出である。

私は福祉学部の学生ではなかったので書店で働くこととなったが、その間に修学旅行にも同行した。2年後には障害の世界に転職することとなった。

リハセンターでの出会いは強烈なものだった。事故や疾病のために途中で心身に不自由が残ってしまった人たちや、小さい頃から不自由がある人たちだ。人生と格闘する姿がそこにあった。「普通に生きる」その事が戦いなのだ。

その中で、Kさんの闘いを紹介したい。18歳の女性。幼い頃からの骨形成不全という病気で車椅子の背を殆ど倒している姿勢。ちょっとした圧力で骨折しやすく細心で介護する必要がある。就学も猶予され家族のもとで生活してきたが、リハ施設への入所をきっかけに、退所後は、親元から独立、骨折の不安がありながらも、学生や社会人のボランティア介護を受けながら生活を選んだ。通信高校から大学の聴講生と自分の人生と向き合い、自力で「教育」を取り戻した。命がけの生活であった。当然、私は、不動産めぐり、食事づくり、新宿方面への外出などにつき合っていた。Kさんは「深い人」という文集を作っていた。学生たちが中心だ、「自分はどう生きるのか」「自分は何者なのか」。私も学生たちも、自身の人生と、まるで戦いのように向き合っていたKさんに、無言のうちに「あなたはどう生きるのか」と問いかけられていたのだと思う。

この仕事に就いてから、私はたえず不自由を持って生きる人たちを生活の糧としながら、「自分の人生を生きる」と教えられてきたように思う。この仕事に就かなければ、どう生きていただろうか。

紙面の都合で、ここで原稿は終わるが、まだまだ読者に伝えたい人はいる。

「ゴムちゃん」ことAさんの戦争、脳梗塞を超えて画家として格闘したIさん、視覚がなく手でご飯の盛りを確かめ、刑務所の御飯と比べて「特等めしだ」と感動した俱利伽羅もんもんのIさん、ホームヘルパーの制度がない時代、学生なボランティアに支えられた活動した若い人たち。

恋愛と別れ、そして出産など、自分の人生と格闘していた人たち。

また機会が与えられれば、一人一人についての私の中の物語を伝えたい。



有賀 唐

この言葉は唐池学園創立の原点である。

現在、ウクライナをはじめ世界のいたるところで戦争や紛争が勃発している。

70 数年前、わが国でも同じような戦争が起こり、多くの人々がその犠牲になった。

とりわけ子どもたちは親兄弟を失い路頭に迷った。

その惨状を見かねた多くの篤志家、宗教家が、この子らの救済に立ち上がった。

「子供たちが起こした戦争でもないのにどうして犠牲にあわなければいけないのか」という至極当然な疑問を抱いた上記の人々の思いが、現在の児童養護施設の存在に繋がったのである。

戦争がなければ多くの子どもたちは路頭に迷うことはなかったのである。

このようなことから『児童養護施設』と『平和』は直接関係のない語彙であるが、大人は二度と戦争を起こしてはならない戒めと子ども達への約束を誓わなければならない意味がここにある。

今の世界を見れば七十数年前の出来事は、決してわが国でも七十数年前の出来事ではないのである。

決して我々はこの先人のスピリットを忘れてはならない。

そして、戦争に大義なんぞ無いのである。

人が人を殺す行為に大義という口実をつけたら、この世の中一体どうなるのか。

利口な人間だったらすぐ分かることである。

子どもたちのためにも大人は愚か者になってはならない。



【表紙の写真の小径】

竹林の中を歩いていると、竹の葉がさらさらと柔らかな音色を奏で、とても心が落ち着きます。途中にはベンチもあり、この空間をゆっくりと愉しむこともできます。

この小径を抜けた先には、美味しい手打ち蕎麦が食べられる「一服館」もあります。

皆さんも是非一度、少しのんびりとした時間を過ごしに、足を運んでみませんか？

吉岡保育園 前園長 大塚 哲朗

雑草というと草むしりの対象となるような草や道路空き地にいつの間にか生えてくる草たちの姿が浮かぶことでしょう。しかしこれらの雑草だってすべて名前もあれば花も咲かせるのです。せめて「野の草」と言ってあげましょうよ。

今回は道ばたの草の代表格、オオバコ（写真右）を紹介します。

花らしい花が見当たらない地味なオオバコの観察には虫メガネが必要です（植物観察の醍醐味の多くはミクロの世界にあります）。

さて、オオバコという名前の由来は大きな葉を広げていることから

で、漢字は「大葉子」と書きます。

この葉と種子には薬効もあり、葉を車前草、種子を車前子といって有名な咳止めです。又食用としても若い葉は油炒め、天ぷら等にして食べられます。このオオバコの花は、中心から伸びた茎の下方からまずツンとした雌しべ達かとび出してきます。それから次にピラピラとした長い雄しべ（写真左）が風にせわしく舞っている姿を見ることができます。このようにオオバコの花が下方から咲き上って行く姿は面白いですよ。その後花茎の周りに出来た果実は熟すとパカッと横に割れ、種子をぼろぼろこぼすことになります（写真下）。

以上のように雌しべと雄しべの熟す時期が違ふことで、自分の花粉が自分の雌しべに付くことを避けているのです。これも又より良い子孫を残していく

という生物界の大原則が伺えますね。

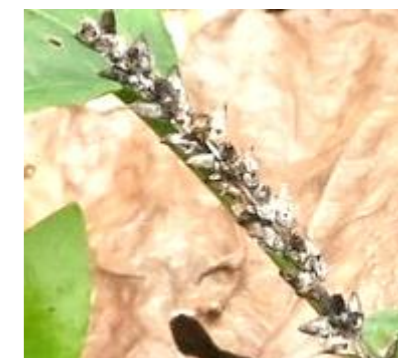
ご承知の通りオオバコは道ばたや人が集まるグラウンド、車の通り道などに多く生えています。なぜ？好き好んでそんな苛酷な生活の場所を選んだのでしょうか。

競争相手が少ない、たっぷり陽の光を受けられる、といったことと共に、自らも葉の中には5、6本の強い筋を入れており（葉のもとの方を千切ってみると分ります）茎は外側が固く内側はしなやかになっていて折れにくくなっています（この性質を利用して茎を二人で引っ張り合うあそびがあります）。

こうして人や車に踏みつけてもらって種子の散布を行なっているのです。

またこの種子は水分がつくと表面が粘液状になりさらにくっつきやすくなっています。といった具合、“オオバコのあるところ人家と車あり”で、山で道に迷ったらオオバコを目印にして行くと良いと言われていたのも一理ありますね。

このように自らは動けない植物は実や種の散布に風を利用するもの、人や動物にくっついて広がるもの、自らはじけ跳んで広げるもの、又スミレのようにはじけた後更にアリにおまけをつけて運んでもらう等々工夫しながらたたかに生きています。そういう目で植物界を眺めてみるのも楽しいかもしれませんね。



新しい扉の向こうへ

児童指導員 川崎 昭彦

イナバウアーで日本中が盛り上がった1996年に就職し、気が付けばあと数年で勤続年数30年を迎えることとなります。実は大学では土木工学を学び、夢は「地図に残る仕事」。卒業後は大手ゼネコンのグループ会社に入社し順風満帆な船出と思いきや、建設業界の水に馴染めず2年で挫折することに。目標を失いしばらく茫然自失な生活を送っていたそんなある日、ハローワークで偶然目に留まったのが唐池学園の求人票でした。福祉の世界とは無縁だった私が、なぜかこの求人に引き寄せられ不思議な魔力を感じたのです。「自分を必要としてくれるんじゃないか？」思い立ったら即断即決。すぐに行動に移しました。そして私がこれまで知らなかった新しい世界の扉を学園が開けてくれたのです。驚くことに、後にも先にも学園がハローワークに求人を出したのはこの1回だけとのこと。不思議な魔力…改めて実感しました。それから10年間は、本園の部屋担当として切磋琢磨しながら充実した日々を子ども達と一緒に過ごしました。



そしてハンカチ王子が甲子園を席捲した2006年。学園にグループホーム「ななの家」が誕生します。この新事業の担当として声がかかり、責任の重さに色々な不安が交錯する中私の背中を押したものは、あの日新しい扉を開けてくれた学園への感謝と恩義でした。そして今度は自分自身で新しい扉を開けようと決心しました。不安だった気持ちはいつしか自信へと変わり、子どもたちの幸せのためにやるしかないという使命感に燃えてきました。万事万端整い、いよいよななの家の新たな歴史が始まったのです。

それからたくさんの紆余曲折がありながらも今年でななの家の担当として17年目を迎えることになりました。そしてあの運命の出会いからもうすぐ30年。ここまで来たらこの先の未来に何が待っているのか最後まで見届けたいと思います。もしまた新たな扉を開くことがあれば、今度は将来の学園を担っていく若い世代の背中を優しく押してあげたいと思います。



就職して1年経ちました！～令和4年度採用職員～

1年を振り返ってみると、あっという間だったと感ずります。とにかく1日をまわすことに一生懸命で、先輩についていくことに必死でした。
2年目になり、仕事や子どもに慣れてきたところなので、これからは少し余裕を持ち、子どもたちとの時間を大切にしていきたいです。(徳本 里奈)

時間の経過が早くなったと感ずるようになったのは、いつのころからでしょうか。毎日芝生を駆け回る子どもたちを見てると、日が沈むまで缶蹴りしていた子ども時代を思い出します。
文字通りあっという間の一年ではありましたが、振り返るとやっぱり「楽しかった」がたくさんありました。今年度も増やしていきたいです。(川本 由美子)

いつも心に太陽を

自立支援担当職員 斉藤 優

2019年から始まった新型コロナウイルス対応にもようやく出口が見えてきました。当園では看護師を中心に感染対策を徹底して、なんとか2年間感染者ゼロで過ごしてきました。しかし令和4年度は力及ばず、園内全ての寮で感染者が出て、子ども達には隔離という窮屈な生活を強い事態となりました。幸い、大事には至らず通常の生活に戻りましたが、色々と考えさせられる隔離生活でした。

強羅暁の星園は中舎制で昔ながらの大きな建物内を男女、幼児と低学年に分けて生活をしています。個室で生活できる環境ではないため、感染症対策において工夫だけでは対応しきれない困難な状況に置かれていました。平時はみんなで楽しく過ごせる集団の良さが、コロナ禍ではデメリットとなることが多く、隔離中はなかなか外に出られない子ども達にとってさぞかしストレスの溜まる期間であったと思います。

私も緊急フォローで混成寮(幼児と低学年の寮)に飛び込みましたが、自由に遊びまわれないストレスで意地悪してしまったり、夜泣きとして現れたり本当に申し訳ない環境での生活支援しか提供できませんでした。

辛い状況の中でも「いつも心に太陽を」もって笑顔で対応してくれていた職員仲間たちには感謝の念しかありません。しかし、ソフト面だけではどうにもならないハード面の課題が見えた新型コロナ対応でした。見えてきた課題を前向きに捉え、今後の建て替えにも反映し、ソフトもハードも整えていきたいと感じた令和4年度でした。

さあ、長いトンネルから待ち焦がれていた太陽の光が見えてきました。

令和5年度も「明るい強羅暁の星園」大人子ども一丸で頑張っていきたいと思います！！



隔離中でもユーモアを
正月には「職員かるた」子どもと
楽しみました♪



こちらソフトは誇れる
強羅暁の星園
ハードも整えて子ども達の
笑顔あふれる施設の建て替
えを目指します！

食育のはなし

栄養士 横山 紗季

皆さんは「食べること」って好きですか？私は管理栄養士という道を選んだくらいなので、もちろん大好きです。今回はドルカスの食に関するをお話したいと思います。

「食育」という言葉をよく耳にするかと思いますが、食育ってどんなイメージでしょうか。バランス良く食べること？一緒に料理をすること？食文化を伝えること？どれも正解だと思いますし、ドルカスでも実践をしています。もっとも身近で簡単なこともたくさんあります。子どもと一緒に食事を囲み「おいしいね」と笑い合ったり、いい匂いがするから今日のごはんは何か厨房に見に行ってみたり、食べ終わった食器を一緒に下げに行ったり、庭に生った柿を取って食べてみたり…。ドルカスの養育者は皆、こういった毎日の積み重ねをとっても大切にしてくれていますし、どれも立派な食育だと私は思っています。



子ども達は毎日が新しい学びの連続です。周りの人とのコミュニケーション、感謝や思いやりの気持ち、生活リズムをつくること、新しい味に触れることなど、「食を通じて学ぶこと」すべてが食育です。

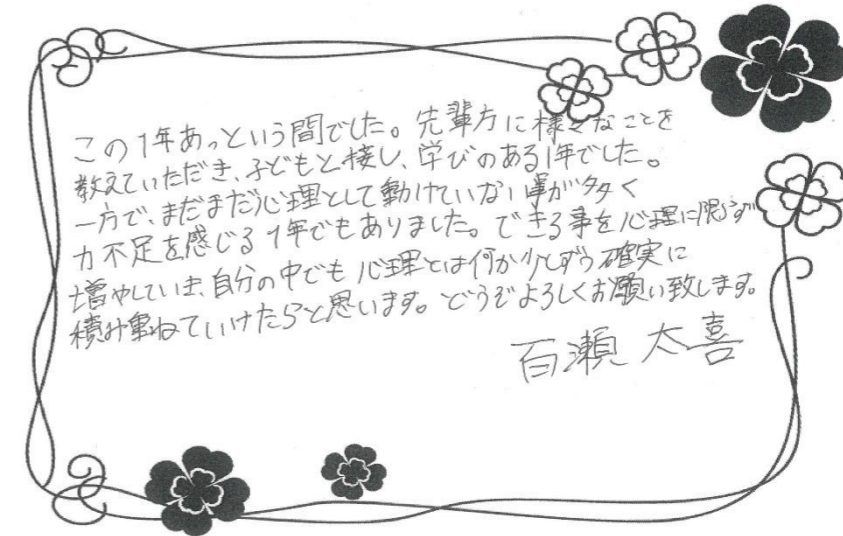
それに人は生きていく限りほぼ毎日食事をしますから、食事の時間が楽しいものか、そうでないかでは人生の質も大きな影響を与えても過言ではないですね！ドルカスの子どもたちにとって「食べること」が大きな楽しみであり、また多くのことを学べる場であってほしいと願いながら、私も日々仕事をしています。

「食育」と言うとなんだかつい構えてしまいがちですが、特別なことをしなくても、皆さんもぜひできることからやってみてください！



食事の配膳の様子
子ども達も積極的に
お手伝いしてくれます！

～入職して1年経ちました～



里親センターひこばえ 「ひこばえってどんなところ？」

里親センターひこばえは唐池学園法人の中の一つですが、実際どんなことをやっているのかわからない方も多いのではないのでしょうか。今回は、ひこばえの活動の中の『里親家庭への支援』を紹介します。例えば乳児院・児童養護施設から里親家庭へ子どもが委託されたその後の関わりを具体的にいうと…

里親子を対象にしたサロンを定期的に行っています。
里親さん同士で自由におしゃべりでき、子ども同士も一緒に遊んで仲良くなれます。

里親さんの通院など、少しの時間子どもを見てほしい時、お預かりしています。

「小学校入学が近づいてきたけど、どんな準備が必要かな？」
という里親さんには、子どもの小学校入学をすでに経験した里親さんの話を聞ける機会を作ります。

「こんな時どうしたらいいの？」
子どもへの関わりに困ったとき、同じような悩みを抱えている里親さんたちと話をできる機会を作ります。



ひこばえ

啓発で配っているひこばえグッズです。



これは支援の一部ですが、ひこばえは必要な人と人をつなぐという役割が大きいのかもしれません。ひこばえのことが少しイメージできたでしょうか。

『色々な初めての経験をした1年間』

保育士 佐藤 愛美

去年の春につぼみ保育園に入職して1年が経ち、初めてのことばかりの一年だったと改めて感じました。0歳児クラスの担任を持つことになり、子どもとの関わり方、オムツ替えやミルクなど、たくさんの方ができる期待と不安がありました。

いざ始まると1日があっという間に過ぎていきました。そんな毎日の中で“子どもとの関わり方”について悩んでいました。先輩方の声掛けや関わり方を真似てみても子どもの気持ちを上手く汲み取れず、私なりの関わり方を探す1年でした。

今年度は昨年度よりも子どもが安心できる存在になっていきたいです。2年目も毎日笑顔でゆったりと子ども達と関わり、温かく子どもが安心できる雰囲気クラスの作りを目指して頑張ります。



『子どもたちとともに成長する』

保育士 松尾 純花

入職してからの1年間、様々なことを学びました。子どもとの関わり方や書類の書き方、行事の動きなど、日々学びの連続でたくさんの経験をすることができました。

運動会と発表会では、子どもたちが練習を頑張っている姿、それを披露する姿を保育士として間近で見ることができました。練習には私も参加していたので、毎日子どもたちが成長していく姿を見て感動し元気をもらっていました。また、本番では嬉しそうに見守っている保護者の姿を見て、改めて行事は保護者が子どもの成長を深く感じられる場だという事を実感しました。

もちろん子どもたちは行事のときにだけでなく毎日成長し続けています。その姿を近くで見て、一緒に過ごせることに感謝し、私自身も保育者として成長し続けていきたいです。

光り輝く泥団子

主任保育士 吉村 真由美

吉岡保育園の玄関を入ると、正面に子どもたちが作った泥団子が棚の中に飾られています。一つひとつ形や大きさやそれぞれ異なり、一人ひとりの子どもたちの姿が違うことを表しているようにも見えます。

以前にも吉岡保育園が大切にしている、自然との関わりについてお伝えしましたが、草花や生き物だけでなく、水や土などの自然物との関わりも同様です。

泥団子は文字通り、泥から作るものですが、団子作りを始めるのは幼児クラスの子どもがほとんどです。それよりも年齢の小さいクラスはまず、泥との関わりから始まります。土と水が混ぜ合おうとできる泥。その感触は気持ち良くて、手足を使って体感していきます。その近くで、年上の子どもたちが泥を丸めている姿を見つけてのぞきこむと、両手で包み込み、球体になるように丸めていくと出来る泥団子。とても魅力的な泥団子に興味を持ち、触ってみます。自分でも丸めてみますがなかなか上手く出来ず、お兄さんお姉さんに教わりながら次第に団子らしくなっていきます。形が出来たら、次は布で丁寧に磨き上げると光り輝く泥団子に。

子どもたちも保育園の生活を通して、光り輝きながら成長していけるよう、見守っていききたいと思います。



新しい支援

放課後等デイサービスにじいろ（在宅支援課） 竹内 奏人

令和4年度4月1日、にじいろの事業所移転と共に私はカビーナ貴志園（入所施設）から放課後等デイサービスにじいろへ異動となりました。入職4年目にして初めての異動となった為とても緊張しましたが、先輩職員方に教えて頂き今では新しい仕事にも慣れ、にじいろ職員の一員として日々過ごしています。

異動をして一番初めに感じたのは職場の雰囲気の違いでした。

カビーナ貴志園では職員がシフト制で入れ替わる為、早番から夜勤まで様々な時間で勤務に入っていました。日によって一緒に仕事をする職員は違い、また生活の場である為常に利用者は近くにいて様々な表情を見ることが出来ました。その為職員間の引継ぎがとても重要であり、職員が入れ替わる時間の合間を縫って利用者や業務の情報を共有し合い支援にあたっていました。

一方にじいろでは、職員は毎日同じ時間に出勤し同じ流れで支援に入り、同じ時間に退勤をしています。また、支援中は常に職員全員が同じ事業所で児童を見ているが、利用児の送迎後には事業所は職員だけの場となり、児童について振り返ったり普段の様子との違いなどについて確認し合う時間がありました。常に利用者が近くにいて生活している入所施設と利用児の送迎が終われば職員のみになるにじいろでは、全く雰囲気も違うように感じられました。

事業所の移転に伴い、支援をする環境は大きく変わりました。事業所の大きさ、トイレや洗面台の使い勝手等利用児にとっても大きな変化となったと思います。加えて職員の異動や、新学期で学校の環境変化も重なり、年度の初めはどこか落ち着かなかったり大きな音に敏感に反応する利用児が多かったです。また、事業所の環境が変わったことで、利用児の中にはクールダウンするスペースが無くなったり作業に取り組むのが難しくなった子もいました。しかし、2カ月ほど経ち私も利用児と関係性が築けてきた頃には大分落ち着き、クールダウンスペースに行く代わりに外に散歩に行ったり、自分で作業スペースを見つけて取り組んだり、みんな新しい環境に少しずつ慣れていきました。



移転前のにじいろ



移転後のにじいろ



事業所のレイアウト

にじいろには、自立課題というカラーボールを同じ色をしたシリコンカップにマッチングさせて入れたり、タオルをくるくるとまとめて枠内に詰めたりといった、利用児が今後出来るようになってほしいこと、生活で役に立つかもしれないことを伸ばしていく活動があります。私たちは自立課題を「お仕事」と称して活動の合間に利用児に提供しています。移転前のにじいろでは自立課題や作業を行う為のテーブルがあり、テーブルの前に座ったらお仕事をすると気持ちの切り替えがしやすい環境となっていました。ところが移転後しばらくは自立課題を置く棚のみが事業所内の真ん中のスペースに置かれている状態で、以前のようにテーブルが設置されていないことで自立課題に取り組む場所が分かりにくい状況にありました。そこで、職員同士で相談しあった結果、奥にあった小部屋に自立課題の棚を移すとともに、事業所の奥半分のスペースは自立課題や他の活動を行う場所と分かるような空間づくりを行うこととなりました。以前のにじいろを参考にした空間を作ることにより、その後は利用児も安心した様子でお仕事に取り組むことが出来るようになりました。



自立課題 1

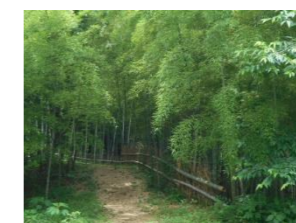


自立課題 2



お仕事

事業所が綾瀬市寺尾から貴志園の敷地内に移転したことにより、様々な面で他課との繋がりが生かせる環境になりました。例えば、移転前おやつ時間はいつも事業所の中で食べていたが、事業所移転後は一服館（敷地内お蕎麦屋）の客席を使わせてもらえることになったことで、テーブルにおやつを並べておやつバイキングを楽しむことが出来るようになったことや、夏休みにはグランドール（敷地内パン屋）へ向かい、買い物学習として実際にパンを購入する体験を行うことが出来るようになりました。またにじいろの事務所前に送迎車が到着した時や散歩している時など事業所の外で他課の職員や利用者や利用児が会うことが多く、学校や自宅の生活だけでは関わる機会の少ない方たちと接する事が出来、良い機会にもなっています。





おやつバイキング



事業所の前で飾り付け

令和5年度より私は入職5年目となり、中堅職員となっていきます。今まで先輩職員方に教えて頂いた支援の考え方、利用者との向き合い方を実行し新しく入職した職員へ伝えていく、何より貴志園の一職員として安心して支援を任せられる職員になりたいと思います。今回の異動により責任のある仕事が多くなりました。私にとって支援員として成長する一つのチャンスだと思っています。保護者の方々と連絡を取り合って利用調整したり、送迎の順番を考えたり、日々の支援について相談し合ったりと今まで入所施設で働いていた時と同じ仕事もあれば、少し違う仕事内容もあり、とてもやりがいを感じています。入所施設での経験を活かし、利用児が にじいろ を卒業したらどのような道を歩むのか、施設入所や通所事業所の利用など様々な将来を考えながら支援にあたっています。ご家庭、学校に加えて にじいろ が利用児にとって第3の居場所として安心して通う事が出来、また将来に向けて成長する手助けが出来る場となるように、これからも努力をしていきたいと思っています。

令和4年度採用職員のコメント

「一年を振り返って」 看護助手 田村 美和

非常勤の時とはまた違い、責任の重さを実感した一年でありました。
これからも、学べることは学びスキルアップにつなげられたらと思います。

「一年を振り返って」 事務職員 野村 亜紀

十数年ぶりのフルタイム勤務、、、。
まわりの方の協力のもと、息切れしつつもなんとか一年走りきりました。
時間の使い方、心の持ち方が課題だと常に感じています。

前理事長 故 鶴飼 正男 先生

去年の6月にドルカス乳児院の保母さん方に何か話をと、摩尼園長に頼まれて「雑談でよかったら」と断って話に出かけた。若さが輝いている未知の保母さん方に園長がこう私の事を紹介して下さい。「どこの民間施設を訪問しても応接間の壁にはその創設者の大きな写真が、油絵の肖像画が飾ってある。中にはまだ生存中なのにブロンズの胸像を置いてある施設もある。それが世間一般というのなら、ここの法人の創設者は変わり者で、施設の何処へ行ってもなに一つ彼の飾り物はありません」。

そう褒められて？恐縮したが、それには私なりに少し考えがあった。半世紀も昔のこと。

大学で英文学を学んでいた頃、T.S.Eliot (エリオット 1885-1965)の「批評」というエッセイの講義があった。委しくは忘れてしまったが、作品の批評の物差しの中に歴史的感覚 (Historical sense)が大事という節があった。過去からの膨大な文学史の流れを「彼はそれを伝統と捕らえ、踏まえた上で未来の指標を作り出すのは歴史感覚だ」というのである。知識とか哲学とか言わず感覚と云った所に注目したい。彼の場合は当然文学作品が対象であったが、そればかりでなく政治家にも言えることで、かの中曽根康弘氏が、TVの対談で総理となるべき人の必須条件の中に歴史感覚のある人——つまり現状が歴史の流れのなかでどう位置付けられ、未来とのつながりでどうあるべきを感じて捕らえられる人——と語っていた。事業の創業者も同様でソニーとか松下とか本田とか云う大企業の創設者を調べてみると、何れもその仕事が時代の流れにマッチしていた内容である事が分かる。時代が欲しがっているニードを具体的に適確に捕らえたのである。

要するに歴史的感覚の持ち主だったと云う事になる。どの創業者も己が情熱と才覚と運とに賭けて始めるのであるから苦勞は並大抵のものではない。成功物語りのサワリの部分である。ところが T.S.Eliot は文学作品の古典についてであるがこう云う。古典が古典として残り、二千年前のホメロスの作品が現在の我々を酔わせるのはそれが当時図抜けた傑作であったのは当然だがそれだけではない。その後の絶え間無い読者、研究者、鑑賞者の支えが続いて始めて古典として残るのであると。

私の考えでは事業でも全く同じで創業者が一人で何もかも出来る筈がなく、また創業当時の協力者の援助があっても、それだけでは発展の持続は出来ない。後に続く人々の不断的努力と研鑽があつてこそである。また奇妙な事にそこには創設者のエスプリというか精神的活力が伝統になってゆくのである。

ドルカスベビーホームについて言えば最初に資金の手当をし敷地を購入し、小規模ながら建物を建て、人を集め、官庁への許認可を得て仕事の基礎を何とか作った事をつまらぬとはゆめゆめ考えないが、もっと大事なのは、むしろ社会福祉の対象者としては一番弱い乳児を預かり養育し、親なり、施設なり、里親なりにもどしてゆくという真面目な仕事の継続——それも二十年を超えた、その事自体が素晴らしいのであって、創業者の表象などはそれに較べれば本質的なことではない。

今回は、第45号(1995年6月発行)に前理事長の故鶴飼正男先生が寄稿された当時のシリーズ「昔の事など」から『事の本質は何か』を改めて考えさせてくれる素敵な文章だと思い、掲載させていただきました。正男先生のエスプリ(精神)は、今年で創立78年を迎えた我々法人の端々に、今も脈々と受け継がれていると感じています。(広報研修委員会 庶務：勝俣浩之)



ネコから学ぶ心理臨床

唐池学園 公認心理師・臨床心理士 磯ヶ谷 尊

2021年の8月末、我が家は2匹の保護猫を引き取った。生後半年程と思われる黒猫の姉妹である。保護主（我々の領域の兎相に相当）宅に引き取り前の面会に行ったとき、1匹は親和的ですぐに仲良くなれた。しかしもう1匹は怯えて隠れてしまい、見上げたキャットタワーのハンモックから耳しか見えなかった。

もともと保護主は姉妹一緒に引き取りを希望していた。しかし、この条件では里親が現れず、「1匹での譲渡も可」に方針を変更していた。息子たちがネットでそれを見つけた。私たちが面会に行ったのは、親和的な方の猫「アクビ」ちゃんだった。保護主さんは姉妹の「クシャミ」ちゃんも紹介したかったのだが、怖がって私たちを寄せ付けなかった、という訳だ。

息子たちはそれでも姉妹とも引き取りたいと言う。私は考えた。『たぶん、クシャミはこの様子では引き取り手は見つかるまい。アクビは幸い人懐こいし、一緒に引き取ればクシャミが我々になれるのを助けてくれるだろう』。結局、私たちは姉妹2匹を引き取ることにした。保護主さんは後に、「全く姿を見せずに里親を見つけた強運なクシャミ」とネットに書いていたので、こんな決断をする家族は珍しかったようだ。

そうなのだ。私は少し考えが甘かった。心理臨床を学んでいた大学院時代、私は言葉以外の方法で患者さんに安心感を与えるための訓練として、野良猫と仲良くなる練習をしていた。怯えつつ、私に関心を示して立ち止まった野良猫を、餌を用いずに安心させ、触れられるようにするのだ。猫に言葉は通じないから、言葉以外の声音、仕草、視線の置き方などの「ノンヴァーバル」な要素で安心感を与えねばならない。それが精神科の患者さんと接するとき役に立つと思ったのだ。だから、怯えるクシャミも慣れさせることができるだろうとタカをくくっていた。

クシャミは子供達によって「チョビ」に改名された。さて、クシャミあらためチョビは単に怖がりな猫ではなかった。近寄ると「シャー」と唸って威嚇した。ケージから出したら逃げ出して、家具と壁の隙間に潜り込んだ。仕方なく引っ張り出したら恐怖のあまり脱糞した。私は自信を失った。妻は「私は10年かかると思っている」と腹をくくっていた。タカをくくっていた私より立派であった。私は心理臨床家としての知識と技術を、チョビに対して用いることに決めた。

まず、このチョビの状態を見定めねばならない。体は硬直し、人間を決して見ないのに、耳は油断なくその動きを探っている。餌は食べてくれるが、近づいたり動いたりすればすぐに威嚇が始まる。闘争-逃走反応だ。保護理由を見直すと、「多頭飼育崩壊」である。ネグレクトだと言ってよいだろう。身体的虐待は報告されていないが、あったと推測される。男性よりも女性を怖がる。

元の飼い主は女性だ。

まずは安全感を持てるように環境を整えることを方針とした。ケージ内は多少安心できる様子だったので、しばらくは出さないことにした。関りは闘争-逃走反応を引き出してしまいが、さりとて放っておいては関係が築けないので、小さく、高めのトーンで名前を呼ぶなどして声を掛けることにした。声を掛けてから近づくと威嚇が起きにくいことがわかった。

1週間程すると、チョビはケージから前足を少しだけ出すようになった。私はこれを、触れてよいというサインと理解した。「チョビ、これに触るよ」と声を掛けて前足に触れると、引っ込めずにいる。家族にも知らせ、同様の関りをしてもらった。触れる範囲は徐々に大きくなった。ここで、ケージから出す決断をした。

ケージから出たチョビはしかし、一目散に長男の勉強机の下に隠れてしまった。この場所はそれから半年ほど、チョビの安心できる隠れ家になった。私はこのまま「家庭内ノラ」になることを心配した。餌を食べに出て来ては、机の下に戻る。我々はチョビが許す範囲で机の下をのぞいては声を掛け、触れることを続けた。

この時期、チョビは長男に最も気を許した。すぐに撫でてでも大丈夫になった。私がアクビとソファで寝ていると、こっそり匂いを嗅ぎに来た。手応えがあった。机の下から出ている時間が延びていく。次男に「ニャア」と言うようになった。蛇のように瞳孔が収縮していた眼は、安心して丸くなり、体の緊張は少しずつ解けた。人の急な動きには怯えて逃げていくが、アクビと一緒にのんびり寝ている姿が見られるようになった。撫でられるのが好きになった。1年経つ頃、ようやくチョビは「家猫」になった。

2年半経った今、チョビは家のどこでもお腹を出して寝ている。朝は私が起きる音を聞いて、ベッドサイドに駆け寄ってくる。撫でてほしいとニャアニャアとしつこく要求する。ある日、猫語を翻訳してくれるスマホアプリでチョビの「ニャア」を調べたら、「I'm happy!」と言っていた。今はアクビのように私の隣で眠ることに挑戦しているらしく、ベッドに乗ってしばらく悩んでは、やっぱりやめたと走っていく。焦ることはない。10年経つ頃には一緒に眠る日が来るかもしれない。

虐待を受けた子供のケアは、もちろんもっと複雑で難しい。どうすれば穏やかで安心した生活を送らせてあげられるのか？ どうすればもっと担当職員と仲良くなれるのか？ 答えはなかなか見つからない。それでも私はチョビからたくさんのことを教わり、ヒントをもらったように思う。私は若き日からずっと、猫から心理臨床を学んでいるのである。



「三浦の別荘」

カビーナ貴志園 小山 信

ようやく最近になり、世間の外出や旅行についてもだいぶ以前のように戻ってきた感がありますが、利用者に新型コロナ感染防止対策の協力に対する感謝の気持ちを伝えること、また外出制限のある中で利用者の楽しみを増やすことを目的に、貴志園では少人数での旅行を一昨年に引き続き昨年も行いました。



三浦の別荘

昨年は、三浦半島の先端にある三浦市小網代の一軒家を借りて、1グループ4人程度で計7回に分け一泊旅行を行いました。その一軒家は、「トトロに出てくる家みたい」という感想も聞かれた、敷地内に蔵もある趣のある建物で、私たちは通称『三浦の別荘』と呼んでいました。



小網代湾

初日はバーベキューをし、夜はテレビのない環境ということもありトランプやUNO、花火などしながら思い思いの時間を過ごしました。



二日目は散歩に出かけ、徒歩数分の所にある小網代湾で海を眺めることや、『森林、湿地、干潟及び海までが連続して残されている、関東地方で唯一の自然環境』（神奈川県HPより引用）である小網代の森を散策するなどしました。



どのグループも概ね天候にも恵まれ、散歩中にわか雨に遭遇したグループもありましたが、それはそれで旅行のいい思い出となった様です。



参加した利用者の多くが、旅行の思い出にバーベキューをあげていました。旅行に行くとき聞き、お土産を買うことを楽しみにしていた利用者も多かった印象がありますが、実際三浦の別荘に行ってみると、普段の生活の場所を離れ自然豊かな環境でゆったりとした非日常的な時間の中、また家庭的な雰囲気の中、過ごすことでお土産を買うこととは違う楽しみを経験できたようです。

何かと窮屈な生活様式が目立つコロナ下ではありますが、今後も利用者が楽しめる時間を確保しながら、この機会だからこそ経験できることを大切にしながら、共に乗り越えていけたらと思います。

各施設、試行錯誤してなんとかコロナ禍を乗り切ろうという努力が見えますね。
貴志園の利用者さんの笑顔が思い浮かぶような素敵な報告、ありがとうございました。(庶務・勝俣)

貴志園主催「しらさぎ祭」のご案内

令和5年9月に開催を予定しています「しらさぎ祭」ですが、新型コロナウイルスの諸状況を考慮して開催することを予定しています。

つきましては、現時点での開催内容や参加者の範囲等は未確定となっています。

毎年、ご協力を頂いている皆様、お祭りを楽しみにされている皆様には大変申し訳なく思いますが、何卒ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。

唐池学園主催「第50回 唐池祭」

毎年10月の最終日曜日に開催していた唐池祭は、コロナ禍の影響により中止を余儀なくされてきましたが、今年度は、令和1年度以来4年ぶりの開催を検討しています。ただし、安心・安全の観点から、今後の新型コロナウイルスの状況を考慮して行いたいと考えていますので、現時点での開催内容や参加者の範囲等は未確定となっています。



今後の状況につきましては、施設のホームページやお便りでお知らせさせていただきます。

【貴志園】

一服館 【手打ちそば・うどん】 TEL: 0467-76-6206

営業時間: 11:00~15:00 定休日: 土曜日・日曜日・祝日
1階の店内でお食事できます。(テーブル席26/カウンター席9)
*現在、席数を減らして営業中です



グランドール【パン工房】 TEL: 0467-76-6206

営業時間: 10:00~15:00 定休日: 土曜日・日曜日・祝日
ご予約・配達も承っております!! ※ご注文・ご予約は、毎週月曜日~金曜日(祝日は除く) 9:00~16:00
*現在、グランドール内でのお食事はお断りさせていただいています



左の写真は、平成30年6月8日にテレビ神奈川の取材を受けたときのものです。





令和5年度 新任職員紹介

所属	氏名	趣味・特技	抱負
唐池学園	辻 祐太	テニス、野球、歌を歌うこと	子どもや職員の方たちとたくさんコミュニケーションを図っていきたいです。
	松川 怜加	旅行、カメラ、塗り絵	子ども達と沢山関わって、沢山吸収し学んでいきたいです。
強羅暁の星園	關根 知貴	野球、釣り、音楽鑑賞	子ども達から信頼や信用をされる職員になりたいです！
	楠山 理子	音楽鑑賞、習字	子ども達と一緒に過ごせる日々を大切にしながら、何事にも全力で取り組みたいです！
	加藤 優衣	バレーボール ライブ鑑賞	子ども達と明るく笑顔で関わる事を意識し、子ども達を笑顔にできるように頑張ります！
ドルカス ベビーホーム	出町 香織	ヨガ	頑張りすぎず、でも手を抜かず…
	坂本 叶美	映画鑑賞・音楽鑑賞	常に笑顔を忘れずに、子ども達としっかり向き合っていきたいです。
	佐藤 あん	映画鑑賞	子どもとたくさんコミュニケーションをとって、信頼関係を築けるように頑張ります。
	菅谷 琉月	バイク	子どもの気持ちに寄り添い、子どもからも職員の方からも信頼されるように頑張ります。
	幅 夏樹	映画鑑賞・ドライブ・美味しいもの巡り・バレーボール	一生懸命頑張ります！
つぼみ保育園	戸部 栞那	映画鑑賞	子どもの気持ちにすぐに気づけるように頑張ります。
貴志園	多田 房代	おいしいものを食べること・TVで競馬を観戦すること	相談員という立場で地域の中でチームの一員となれるように頑張りたいです。
	津山 竜大	映画鑑賞	支援に対して全力で取り組む。
	石井 瑞希	アイドルのライブ鑑賞・沢山寝れること	利用者一人一人の個性を大切にしていけるような支援を心がけて、毎日明るく頑張ります。



4月1日にレンブラントホテル海老名で、辞令交付式と新任職員研修が行われました。研修では、理事長から「福祉人としての基本的な心得」を、田中理事から「人権擁護と虐待の防止」を学びました。研修終了後の交流会の席では、新任職員一人ひとりから「仕事をする上での夢・頑張りたいこと」について力強い!?宣誓がありました。皆さん、この日のことを忘れずに頑張ってください。

協力会会費・寄附金をくださった方々の紹介

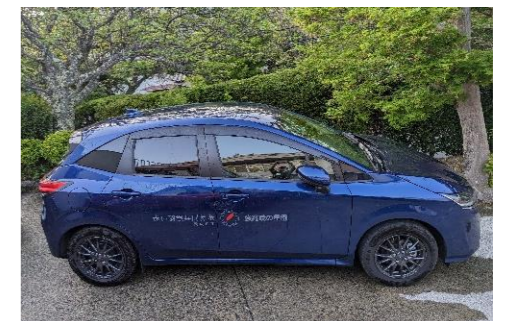
◀期間：令和4年4月～令和5年3月まで（50音順に掲載）▶

市川れい子 様、大塚哲朗 様、(株)大友電気(代)大友宏俊 様、勝俣幸子 様、河尾豊司 様、川邊溪子 様、刑部久子 様、小泉晴俊 様、国際ソロプチミストあやせ 様、(株)コスモジェーオーピー(代)富倉 弦二 様、小林陽子 様、今 壽夫 様、佐瀬睦夫 様、佐藤昭浩 様、佐藤美喜 様、志澤 勝 様、(医)珠鈴会 様、女子学院 様、(株)杉久保デザイン社 様、鈴木 彰 様、鈴木克政 様、鈴木典子 様、東洋染工(有) (代)柏木静江 様、長井晶子 様、中里良治 様、額賀智徳・法子 様、野々村カヨ子 様、服部和子 様、服部信一 様、原瀬克久 様、原瀬久利 様、原瀬光子 様、半沢建設(株) 様、福岡令朗 様、藤井 剛 様、藤沢北教会 様、二見吉明 様、まちの司法書士事務所 篠原康史 様、松尾泰博 様、宮島恭子 様、(株)MOTTERU 様、森谷充子 様、(株)安江設計研究所 (代)安江知之 様、矢野敏昭 様、山浦雅一 様、山田すみ子 様、山田竜平 様、ユニコーン(株) 様、綿引光友 様、綿引裕子 様、その他たくさんの匿名の方々

◀ 施設からの報告 ▶

○児童養護施設 強羅暁の星園

神奈川県共同募金会から配分を受け、日産ノート XFOUR (写真右) を購入させていただきました。子供達の送迎などに大切に使用させていただきます。



○つぼみ保育園

神奈川県共同募金会からの配分を受け、園児や職員の安心・安全のために、園舎の傷んでいた床の修繕などを行いました。おかげ様で、左の写真のとおり見えるようにきれいになりました。

○貴志園

中央競馬馬主社会福祉財団からの助成を受け、トヨタレジアスエース (写真右) を購入させていただきました。貴志園の利用者さんの送迎などに大切に使用させていただきます。



～ 誠にありがとうございました。唐池学園及び各施設一同、感謝申し上げます ～



* 共同募金会とは、赤い羽根をシンボルとする共同募金を行う社会福祉法人で、社会福祉法に基づき都道府県ごとに組織されています。
赤い羽根共同募金は、福祉施設の運営の一部を支えています。
※詳しくは ➡ www.akaihane.or.jp をご覧ください。



令和4年度決算報告（法人単位貸借対照表）

令和5年3月31日現在

（単位：円）

資産の部		負債の部	
科目	当年度末	科目	当年度末
流動資産	458,003,385	流動負債	169,505,988
現金預金	283,532,372	事業未払金	86,076,885
事業未収金	123,020,032	1年以内返済予定設備資金借入金	19,282,000
未収補助金	14,840,783	1年以内返済予定リース債務	1,593,240
原材料	545,451	未払費用	56,045
立替金	29,544,727	預り金	552,433
前払金	3,808,812	職員預り金	3,537,901
前払費用	2,019,308	仮受金	0
仮払金	691,900	賞与引当金	58,407,484
固定資産	2,604,802,293	固定負債	300,724,650
基本財産	1,175,542,288	設備資金借入金	143,698,000
土地	336,043,225	リース債務	3,950,100
建物	839,499,063	退職給付引当金	153,076,550
その他の固定資産	1,429,260,005	負債の部合計	470,230,638
土地	34,918,541	純資産の部	
建物	104,898,577	基本金	618,305,701
構築物	23,950,698	基本金	618,305,701
機械及び装置	3,441,793	国庫補助金等特別積立金	582,610,041
車輛運搬具	12,271,439	国庫補助金等特別積立金	582,610,041
器具及び備品	28,270,221	その他の積立金	1,056,991,254
有形リース資産	5,543,319	人件費積立金	289,700,000
権利	1,701,200	修繕費積立金	0
ソフトウェア	2,598,993	施設整備等積立金	612,291,254
退職給付引当資産	153,076,550	保育所人件費積立金	38,000,000
人件費積立資産	289,700,000	保育所施設整備積立金	117,000,000
修繕費積立資産	0	次期繰越活動増減差額	334,668,044
自動車リサイクル預託金	113,420	次期繰越活動増減差額	334,668,044
差入保証金	1,484,000	（うち当期活動増減差額）	108,712,477
施設整備等積立資産	612,291,254		
保育所人件費積立資産	38,000,000		
保育所施設整備積立資産	117,000,000		
		純資産の部合計	2,592,575,040
資産の部合計	3,062,805,678	負債及び純資産の部合計	3,062,805,678

※その他の詳細は、法人のホームページ（URL：<https://www.houjin-karaike-g.org/>情報公開/）をご覧ください。

【ご感想等紹介】第71号の読者プレゼントにご応募いただいた方の感想等の一部をご紹介します。

◎シリーズ連載『野の花のこと』大変勉強になります。草花の名前、特徴を写真付きで見ることができ、日々の保育で子ども達にも伝えていきたいと思えます。（綾瀬市S様）

◎グランドールの食パンを食べたら、他のパンは食べられません。とてもとても美味しいです。絶品です。これからは「絶品食パン」をほおぼりながら、『雑品倉庫』の愛読者になろうと思えます。（綾瀬市W様）

◎1号1号が読み応えがあり、会報を作成している皆様の並々ならぬ思いが伝わって来るようでした。

（川崎市S様）

※ご応募ありがとうございました。なお、紙面の関係上、一部割愛して掲載させていただきました。

役員等名簿（令和5年7月1日現在）

*敬称は省略させていただきました。

区分	氏名
理事（6名）	鶴飼 一晴（理事長）、摩尼 昌子、富岡 貴生、田中 晃、 笹野 つる子、加園 貴代子
監事（2名）	長井 晶子、柏倉 正
評議員（9名）	手塚 宏子、高松 邦夫、鈴野 敏、山口 晴一、今 壽夫、 森谷 充子、古塩 幸子、服部 和子、後藤 眞一
評議員選任・解任委員（4名）	長井 晶子、阿部 浩行、鈴木 美恵子、稲垣 美千子
第三者委員（3名）	宇野 けい子、原田 貴子、矢部 美奈子

♪ 読者プレゼントのお知らせ ♪ ～ 雑品倉庫の感想・ご意見をお寄せください ～

『貴志園 2023 冬のギフト』を応募多数の場合は抽選で10名様にプレゼントします。

応募方法 官製はがき又は e-mail に「住所」、「氏名」、「電話番号」、「雑品倉庫の感想・意見等」をご記入のうえ、
事務局までご応募ください。

e-mail の場合は、件名を「読者プレゼント応募」としてください。

応募〆切 **令和5年12月8日（金曜日）消印有効**

※ 当選発表は、賞品の発送（年内予定）をもってかえさせていただきます。

※ 『雑品倉庫の感想・意見等』は、次号の紙面で紹介させていただく場合がありますので、ご承知おきください。



昨年のプレゼント（内容は変わる予定です）

< 編集後記 >

制限された生活も、ようやく幕を閉じそうな感じがしています。法人を利用する子どもたち等が当たり前の日常生活を取り戻していくために、創意工夫しながら日々を過ごしています。

これから何やりたいですか？どこに行きたいですか？そんなことを話しながら、一緒に考えながら思いっきり楽しんでやりますので、今後の笑顔溢れる雑品倉庫を期待してください！

広報・研修委員会 委員長 富岡 貴生

発行者 唐池学園協力会

編集者 社会福祉法人唐池学園 広報・研修委員会 委員長 富岡 貴生

編集委員 今井 美穂、斉藤 優、白幡 香織、相馬 幸那、岩内 亜矢、小山 信、勝俣 浩之

事務局 〒252-1124 神奈川県綾瀬市吉岡2377番地口号 唐池学園内（担当：勝俣 浩之）

電話：0467-78-0514/080-4897-1867 Fax：0467-76-3006

e-mail：karaike-honbu@bz04.plala.or.jp URL：<https://www.houjin-karaike-g.org/>